

第7回FLEC フォーラム

プレセッション 資料

プレセッション①「あらためて、こども家庭センターはなぜ必要か

～小規模自治体におけるこども家庭センターの取り組みから考える～

令和7年3月14日 金曜日

長野県阿智村教育委員会
こども家庭センター

センター長 島岡 佐喜子

全国子ども家庭総合支援拠点設置促進支援アドバイザー（R3年度～）
全国こども家庭センター支援アドバイザー（自治体アドバイザー）
（厚労省・家庭福祉課虐待防止対策推進室→西日本こども研修センターあかし委託
資格 保育士資格 幼稚園教諭（教員免許）長野県要対協調整担当者研修
職歴 私立幼稚園教諭 公立保育園保育士 公立子育て支援センター 勤務

はじめに...

山あいの自然豊かで、星と花桃が美しい 阿智村

人口 5,917人のこの村に 年間生まれる 赤ちゃんは 約20～30人ほどです。

(令和6年度 23人)

その、だいじな新しい命がどんな星よりも 輝き続け、健やかに成長していくために
阿智村こども家庭センターでは さまざまな業務を通し、応援を続けています。

阿智村こども家庭センターの願い・役割

地域全体で子育てに関心を持ってもらい、行政の各機関と連携して妊婦から18歳までの子どもがいるすべての家庭の子育てを支援していく。子育てへの負担感や不安感が軽減されるような援助をし、楽しく安心して子育てができる環境づくりに努める。

子育て家庭をとりまく様々な状況や問題に対し、相談や支援を行い

妊産婦および乳幼児期・学童期から18歳までの子育てをサポートしていく。

観光の村 阿智村

年間350万人の観光客が訪れる
昼神温泉

暮らす、生きる。
阿智家族

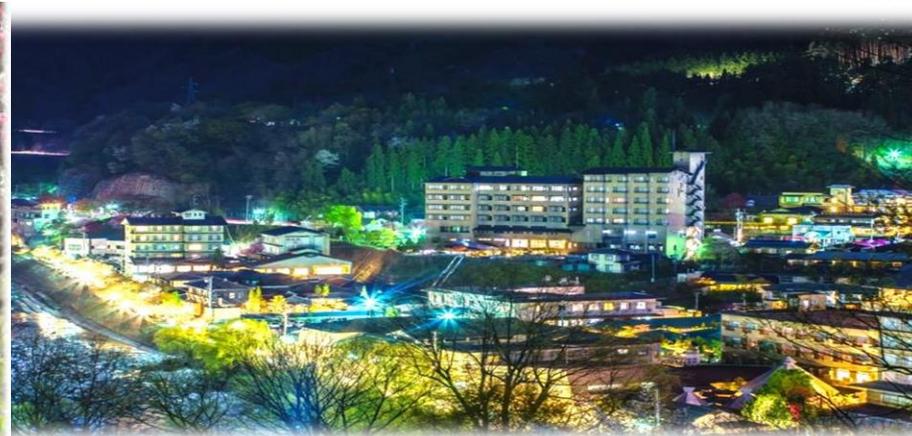
語れる夢があること、支えあえること、
分かち合う場所があること、
朝を楽しみに眠れること。
阿智に暮らすということとは、
村ごと大きな家族になること。
暮らしている人も、暮らした人も、
阿智家族。



環境省認定 日本一の星空

村内に3つのスキー場と1つのゴルフ場

花桃の里

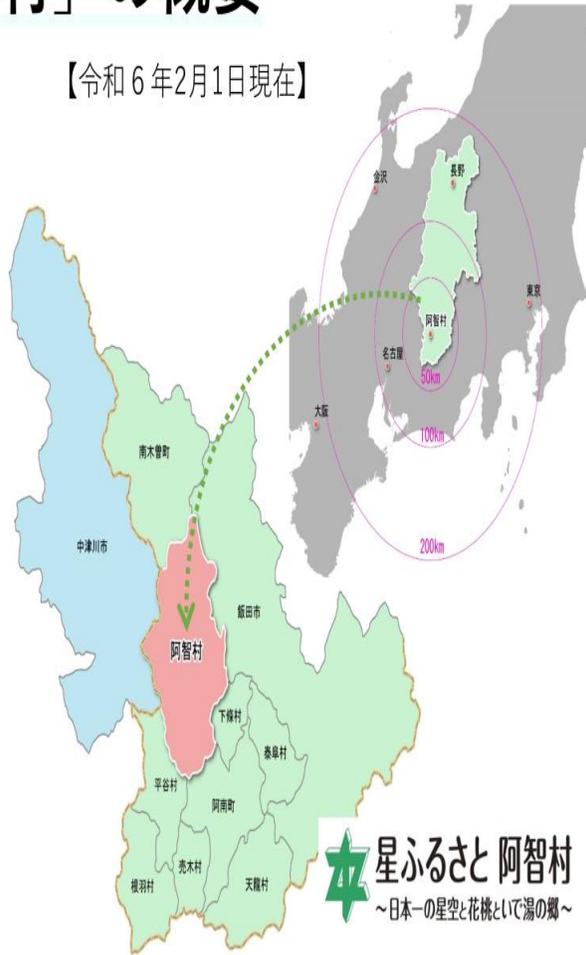


南信州「阿智村」の概要

【令和6年2月1日現在】

●南信州の西部

- ・面積 214 km²
- ・標高 410m~2,191m
- ・56の集落に村民が居住
- ・人口 5,917人
- ・世帯数 2,396戸 高齢化率 36.70%



●主要都市との時間距離（自動車）

- 【東京】 →約3時間30分
- 【名古屋】 →約1時間30分
- 【大阪】 →約3時間30分
- 【長野県庁】 →約2時間30分

6保育園 5小学校 1中学 1公立高校
教育委員会に属するこども家庭センター



阿智村 では

村の子育て支援の充実のため、従来の子育て支援室に母子保健業務を移し「こども家庭センター」としました。

児童福祉と母子保健の「連携」から、より一歩前をめざし、母子保健機能と児童福祉機能を一体的に行うこどもに関する相談支援体制の

充実を図っています。職員数の少ない阿智村では専任保健師の配置は大きな力となっています。

- 村として子育て支援を重要な施策と位置付ける
- 国が推進する事業を積極的に取り入れることで、住民に信頼される行政(村)へ
- 人が人へ行う仕事。人員の確保・維持が大切



子育て支援の充実

センター開設までに必要だったもの

- ①上層部(村長、教育長)の理解・覚悟・方針 (縦)
- ②他課との調整 (横)
- ③現場・担当者の思い (真ん中)

センターに する・しない

①首長【トップ】の理解・覚悟・方針 (縦)

③現場・担当者の思い (真ん中)

②他課との調整(横)

短期間でセンター開設へ向かえた理由

- ①こども家庭総合支援拠点としての実績【**要対協担当**】
- ②子育て世代包括支援センターの実績【**母子保健連携**】
- ③信頼性の獲得【**庁内外**】
- ④開設に際し大きなことをしない【**移転、新築、機構改革**】
- ⑤開設の前年までに必要職種・人員の獲得を少しずつ行った
- ⑥センター開設年の新規採用職員はゼロ。異動で対応。

よく出されるご質問・ご感想

- ①上司、上層部の理解・動きが薄い。(ない)【**分析と立案**】
- ②こんなに人員、人材を揃えることができない【**専門職の考え方**】
- ③複雑困難な事例がゼロ。要対協もない【**0ゼロが1になる時のリスク**】
- ④阿智村は特別なのでは？【**長い時間をかけてここまでできました**】

主な業務

国のガイドラインより

- (1) 児童及び妊産婦の福祉や児童・家庭、母子保健の相談等への対応
- (2) 家庭や地域の状況の把握・情報提供、必要な調査・指導等
- (3) 支援を要する子ども・妊産婦へのサポートプランの作成、連絡調整
- (4) 保健指導、健康診査等
- (5) 関係機関との総合調整
- (6) 地域資源の開拓
- (7) 地域子育て相談機関との連携、支援
- (8) 家庭支援事業の利用勧奨・措置
- (9) 地域子育て相談機関の整備等
- (10) 要保護児童対策地域協議会

職員配置

国のガイドラインにおける職員割り当て

- ・センター長 1名
- ・統括支援員 1名 センター長と兼務
- ・保健師 1名
- ・心理士 2名
- ・虐待対応専門員 2名
- ・困難事例対応員 2名
- ・教員（免許） 4名
- ・保育士（資格） 5名
- ・放課後児童支援員 5名
- ・事務担当 3名

* 兼務・再掲あり

職員体制

班体制による業務分担

阿智村教育委員会 教育長 黒柳 紀春				
教育次長 川上 悟				
こども家庭センター長 島岡佐喜子（統括支援員）				
母子保健班	こども家庭班	事務担当	放課後こども班	教育支援センター
妊産婦・乳幼児 未就園児、 保育園児 (とその家族)	小、中、高校 18歳までの 児童生徒と若者 (とその家族)	母子保健事務 こども家庭事務 児童扶養手当 児童手当	学童保育 放課後子供教室 青少年若者対策, 第三の居場所	教育支援センター 運営管理 不登校児童生徒支 援
子育て支援ネットワーク (要対協) 児童・生徒支援ネットワーク (発達)		交付金、補助金 工事関係 広報・HP 郵送・発送事務		生活・生徒指導 ネットワーク (いじめ・不登校) (学校教育)
班長 鈴木美穂	班長 宮島 豊	班長 塩澤 英明	班長 古田一成	班長 佐々木栄子
宮下真由美	麦島 千咲	(林恵美里)	林 章子	(宮島 豊)
熊谷みつ子	竹内富美子	古川友香理	(宮島 豊)	(竹内富美子)
林 恵美里			(原亜珠美)	
松島 智佳				

平成28年度は4名。令和元年[子育て世代包括支援センター]と[こども家庭総合支援拠点]開設年に8名に倍増。その年から6名増（8年間で10名増の14名）

子育て支援室 (平成31年4月～)

[子育て世代包括支援センター]
【母子保健】

[子ども家庭総合支援拠点
小規模A型]
【児童福祉】

<連携>

<一体化>

令和6年度～阿智村こども家庭センター

阿智村こども家庭センター となって 実際のところ一体化とは？

- ・業務【母子保健】が増えました。 増員したからよだけでなく業務の理解が全員に必要。全員がレクチャーを受ける。
母子保健の業務量、深さ、知識 相当なもの。その理解に努めたい
- ・児童福祉はこれまで培ってきたものを自信をもって伝える、発揮する。
異動してきた職員、新規の職員、はじめての環境に戸惑いを少なく、慣れていけるように職場の雰囲気重視。従来いた人だけのやり方を優先にしない 耳を傾ける
- ・職員間のコミュニケーションを大切にする。
業務以外の話も楽しくするように…ハラスメントとの線引き
- ・不明、疑問 ≠ (不平・不満) はその場で伝える。
新鮮な意見も刺激になる 風通しをよく ストレスの開放
- ・ひとりの仕事にしない。関心を持つ、気に掛ける、声をかける チーム力
それぞれの分担でひとり仕事が多い。今後の課題
保健師1名のため、保健師への負担をどのように軽減していくことができるのか
- ・様々な職種の考えや経験をお互い尊重しあう。考え方を認め合う
学んできた基本、養成課程が異なるのでアプローチの仕方も異なる。

 野球に例えると… 

◆ 相手チームのバッターは「母子」
1番～9番 時には代打、代走

母子保健業務はチームの要

保健師は「打たせない！」の予防球

エース エースピッチャー：球種・スピード 防御率

児童福祉は「打たれたら必ず捕る！」

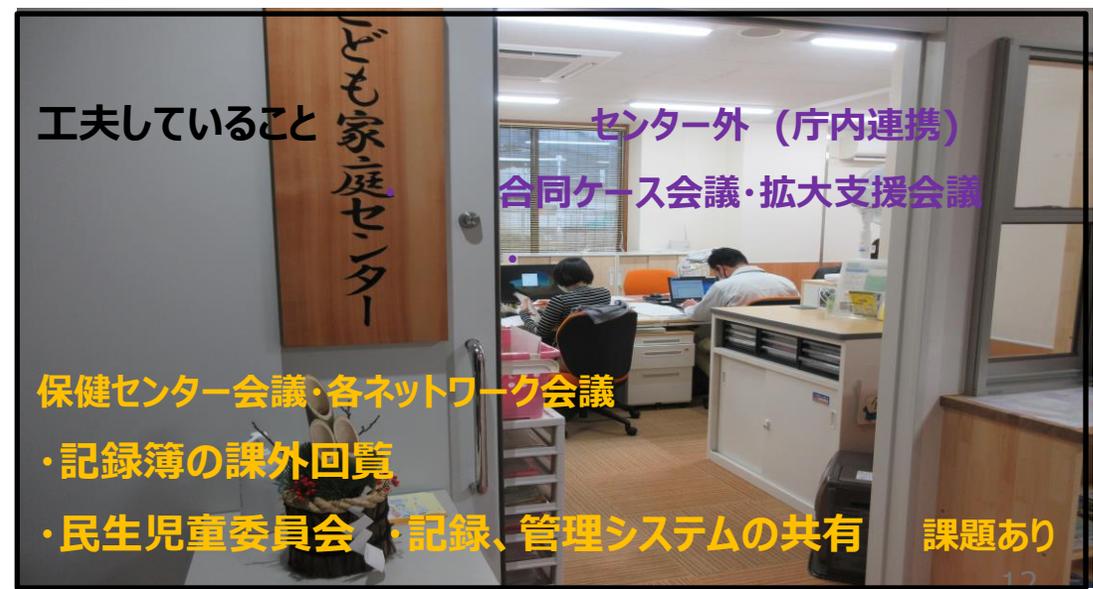
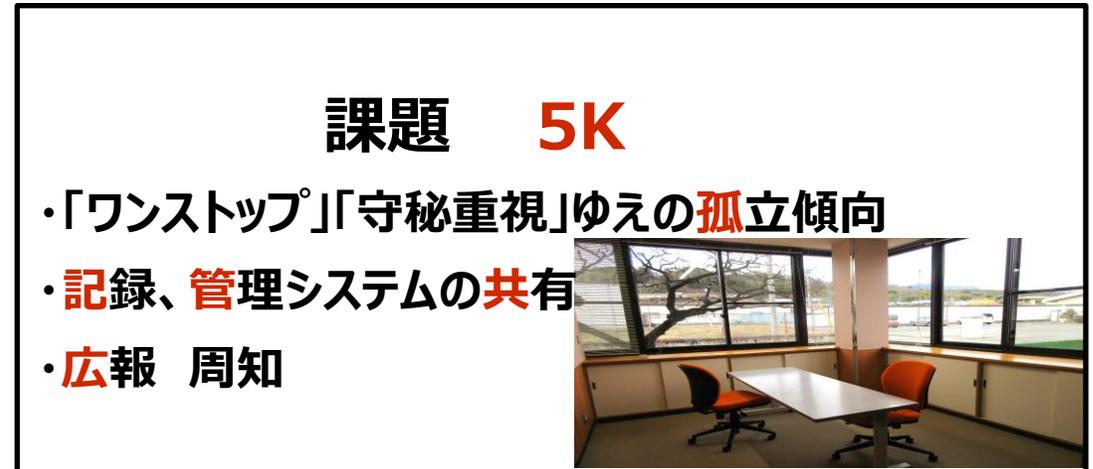
守備の要 ポジショニング 「対応シフト」

ゴールデングローブ賞

チーム〇〇

攻め？ 守り？ 混合？ 二刀流？

阿智村こども家庭センター となって



業務成果(ほんの一例)

• 令和5年度対応件数

内容	件数	会議数
育児相談	25	5
保健相談	6	
発達相談	104	144
家庭相談	65	20
教育相談	44	81
虐待相談 (新規)	24	28
その他	8	5

• 令和6年度対応件数<4/1~12/31まで>

内容	件数	会議数
育児相談	8	3
保健相談	35	12
発達相談	76	101
家庭相談	64	16
教育相談	42	54
虐待相談 (新規)	10	19
その他	3	4

こども家庭センターになってから

- ・専門職が増えたことで、保健師、心理士でケアやフォローができることもあり、児童相談所さんの関与なく、村で進行・完結している（してください）というケースも増加（児相さんのご多忙も加速的に増している） **独立国家！？**
- ・担当で役割やケースの分担<専門性、得意、不得意、児童や保護者との相性> 全力で対応をするが、管理や進行について客観的・専門的なアドバイスをいただきたい時（こと）もある。**児相さんにしかない権限、立場の違い**
- ・**困難事例をセンター（要対協拠点）のみで担っていくのであれば**
- ・**部署内での専門性の強化、ケースワーク技術の向上が必要**

目指すところ

研修会参加、自己学習の時間保障
支援の継続性を保つために異動への配慮

重要性の周知
自治体の責務

- 児童相談所さんの強み
- 児童相談所さんの弱み

- ◇ 自治体の弱み
- ◆ 自治体の強み

お互いで手を取り合い、連携協働していく 関係性、信頼度

阿智村こども家庭センターとなっても！（変わらないこと）

- ・従来からの業務や職員の対応の基本 **変えない 変わらない** 目にできる。手が届く。そこにある支援。
- ・こどもと家庭に寄り添う場所であり続けること **誰がどういう場所で、どの組織として動くのか**
- ・こどもを第一に考えた対応 **支援の原点 こどもの最善の利益**
- ・チーム業務 **機関連携も含めて**
- ・環境や人員、サービスの充実のための補助金の活用、施策の検討 **今だからこそそのチャンスを生かす**

・ 最終的な目標はひとりも亡くさない。誰も亡くならないこと。

虐待死、いじめ、自殺、DV、貧困、事故、交通事故、

1人の出生数と1人の死亡数 ひとつの命の重さ 出生率の増加、人口増

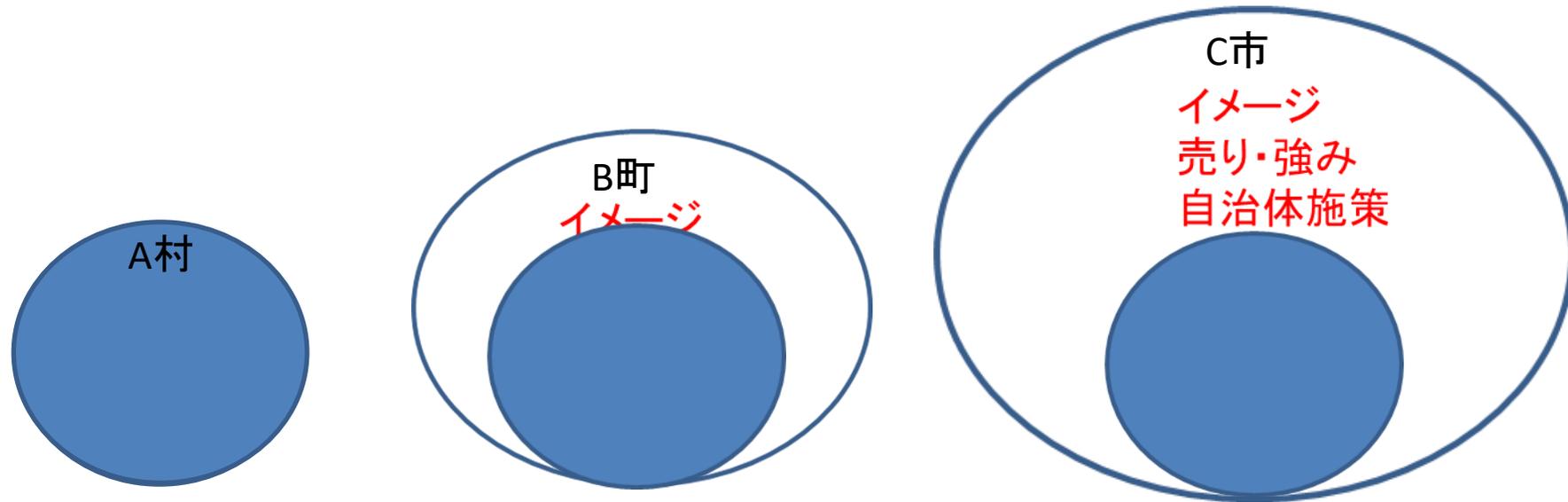
18歳成人になるまで続く命

「こどもひとり」その数は小さな自治体にとって大きい

職員の 労災 過労

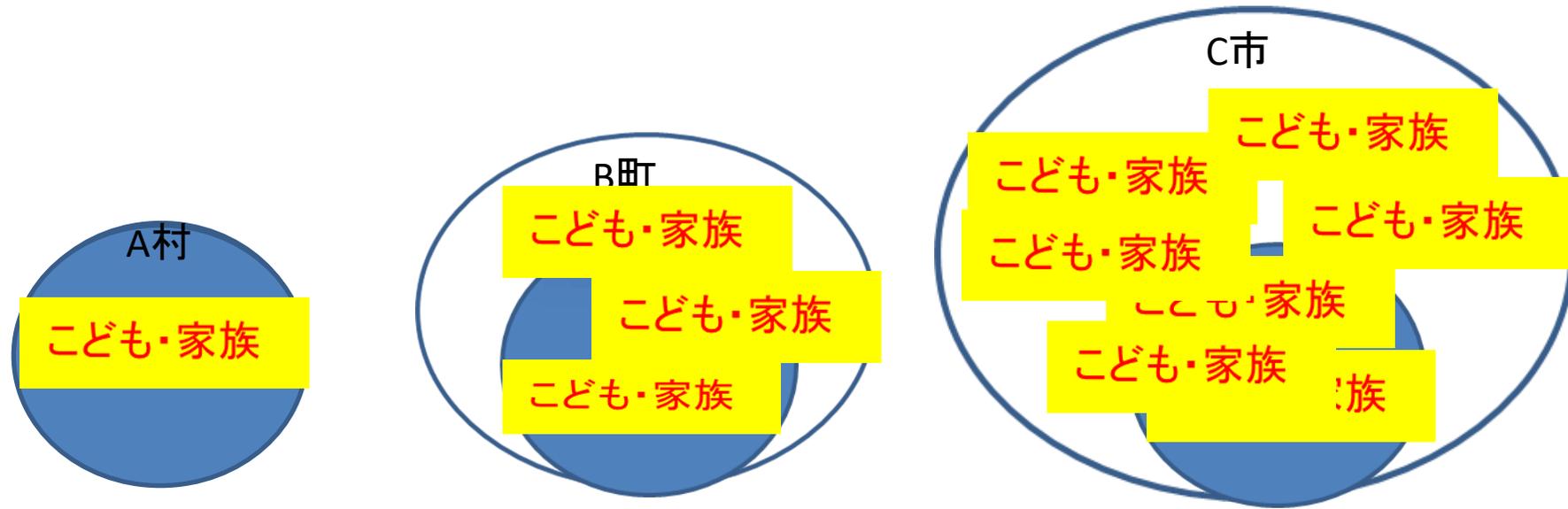
支援者、職員の元気と健康を保つ・守ること

小規模自治体に
なぜセンター(要対協・拠点)が必要になるのでしょうか



自治体のリスクマネジメント

小規模自治体に
なぜセンター(要対協・拠点)が大切になるのでしょうか



当該家庭・児童のリスクマネジメント

小規模センターの強みと弱み

強み

- ・「報・連・相」が速い(決定が迅速)
- ・現場とトップが近い(相互理解)
- ・人が集まりやすい (チームワーク)
- ・情報が集まりやすい
- ・小回りが利く
- ・柔軟性を持った支援が可能

弱み

- ・ (異動も含めて) 職員の切れ目が支援の切れ目になりやすい
- ・ 正規職員の安定的な配置 人材確保
経験値と資格を考えた次の世代への繋ぎ
- ・ 一人へかかる業務負担量 濃さ

小規模自治体ゆえ の 課題感

- そもそもの人口(担い手、働き手)の少なさ
 - ・そのなかでの専門職確保
(県内、近隣市町村での取りあい
保育士、保健師、心理士)
雇用形態の工夫 専門職の柔軟な考え方
- ・小規模自治体のみで作り上げる組織
や支援団体の限界。先どまり感
- ・地形、風土、交通インフラ の課題

頼れる機関を！

使える制度

チャンスを活かせるか

- ・小さな自治体だけではできないこと、不安なこと
たくさん
- ・自治体(こども家庭センター)がこどもと家庭に寄り
添うように
小さな自治体に寄り添ってもらえる何か、誰か
- ・仲間が増えれば誰でも心強い

さいごに…センターとは

こどもの未来をつくる、未来につなげる

市町村の未来

自分の市や町、村の子どもたち一人ひとりを
どのような大人にしたいか

思いを持つ デザインする
どのように幸せを維持するか
もっと幸せになれる 何かと、誰かと繋がる

できることを少しでいいから始めてみる

どんなに進化、変容しても変わらないもの
センターという単語やイメージに惑わされがち

センター＝まんなか

こどもまんなか 最後の砦

星の光が絶えることがないように子どもひとりひとりへ向けた支
援も途切れることのないように

これからも阿智村子ども家庭センターでは長い時間をかけて
丁寧なチーム支援を行っていきたいと思います

本日はありがとうございました。